

(シラバスNo.21)

科 目 名	多文化共生教育特論	科目コード	24P-K2	
		科目群名	関連科目	
	Advanced Seminar on Multicultural Kyosei Education	必修／選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	山梨 彰	単位数	2	

【実務内容（実務家教員の場合）】
該当しない

【授業概要】

「多文化共生教育」の含意は、「障害者」、LGBTQ+、ジェンダーなどの様々なマイノリティの文化集団に関わる教育を意味するが、この授業では「外国につながる人々」に焦点を当てて考える。社会的な背景を見た時、多くのメディアや日常生活を通して、私たちは日本社会が事実上の「移民社会」に変貌しつつあることを知っている。グローバル化の急速な進展のもとで、異なる国家や地域、民族(エスニシティ)を背景にする人々が出会い、偏見・差別のない関係を結び、それぞれの文化や歴史の異質性を相互に受け入れて承認し、社会的公正を実現して「共生」することが、現在そして近未来の世界的な課題である。「多文化共生教育」を学ぶ意義はここにある。

授業では、基本概念の理解を踏まえ、アメリカの「多文化主義・教育」の歴史と理論を参照軸として、マイノリティとの公正で対等な差別なき関係性のもとでの「多文化共生」教育の理念・歴史・現状を考えることを大きな柱とする。さらに、外国につながる人を招いて、日本社会のなかでの具体的な生活者としての思いを受け止めて、それに答える教育とは何かを考えてみたい。なお、受講者の状況に応じて授業内容や参考文献などは柔軟に対応する予定である。

【授業の到達目標】

1. 「多文化共生教育」(多文化教育)の理念・概念を把握する。その際、「多文化主義」の理解の鍵となる「人種」「民族」「移民」「国民国家」「日本人性」などの基本概念の理解も深めていく。
2. アメリカと日本に焦点を当てて、多文化共生教育(多文化教育)が 20～21 世紀の中でどのように展開してきたかを歴史的に、かつ概念理解を中心にして把握する。
3. 現在の日本での特に「外国につながる」児童・生徒の教育に注目して、彼らが置かれている現状を多角的に検討し、法制度や教育政策の現状、将来の展望を把握する。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴> (毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください)

形態	実施	具体的に実施すること
講義	○	多文化共生教育(多文化教育)の理念と歴史。外国につながる児童・生徒の現状把握。
グループワーク・質疑	◎	多文化共生教育の各テーマに関するトピックに基づいたディスカッション。
演習		
プレゼンテーション	◎	各文献や論文をまとめ要約したものを学生が発表。
制作		
その他 ()		

【授業計画】 (順序が変わる場合があります)

回	内 容
1	多文化(共生)教育―問題の提起、「多文化共生」の概念と「多文化社会」の概念
2	文化、人種、民族、エスニシティ、移民について(多文化社会の形成、移民の世界史)
3	多文化主義と多文化教育～アメリカにおける史的展開
4	多文化(共生)教育の概念と歴史(その4)(多文化社会と多文化教育)

5	国際人権法の視点からの問題の把握～国際人権に関わる諸宣言・諸条約について
6	日本社会の「多民族性」～戦前と戦後
7	日本社会の「多民族性」～外国につながる人々の置かれている現状
8	日本の外国人教育政策～1990年代以前
9	日本の外国人教育政策～1990年代からの変化
10	多文化共生教育の視点からの日本の学校教育～外国人をめぐる言説、「日本人性」の意味
11	多文化共生教育の視点からの日本の学校教育～日本の学校システムの脱構築と再構築
12	日本の学校教育の課題を考える
13	「当事者」の声を聞き、対話をする
14	「当事者」との対話を受けての討論
15	多文化主義・多文化共生教育の課題（まとめ）と最終討論
試験	
【履修上にあたっての準備】 ・行政関係の資料は、インターネットからダウンロードできます。①教育再生会議第9次提言(2016)、②文部科学省「学校における外国人児童生徒などに対する教育支援の充実方策について」(2016)、③法務省「多文化共生の推進に関する研究会報告」(2018)④ユネスコ「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」(1974) 見つけるのが大変だったら、私が用意します。 ・下の【参考図書】は余力があれば、読んでみてください。英文の本は入手しにくいと思うので必要な場合に関連箇所を私が用意する予定です。	
【授業外学修（予習・復習）】 教科書を分担して、自分の担当の内容のレジュメを用意しておいてください。その際に受講生間の討論の論点を2～3つ提示してください。 授業で学修した内容について、「振り返り」を提出してください。	
【評価方法】 授業内でのレジュメのプレゼンテーション(34%)、授業内での発言（33%）、「振り返り」の内容(33%)の割合で総合的に判断、評価する。	
【教科書】 松尾知明編（2013）『多文化教育をデザインする～移民時代のモデル構築』勁草書房（ISBN：978-4-326-25090-5）	
【参考図書】 ・小熊英二（1995）『単一民族神話の起源』新曜社（ISBN：9784788505285） ・馬淵仁編(2011)『「多文化共生」は可能か～教育における挑戦』勁草書房 (ISBN:9784326250691) ・ダイアン・グッドマン（2017）『真のダイバーシティをめざして』上智大学出版（ISBN：9784324101162） ・文部科学省総合教育政策局（2019）『外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版』明石書店（ISBN：9784750348407） ・「外国につながる子どもたちの物語」編（2020）『クラスメイトは外国人 課題編』明石書店（ISBN：9784750349411） ・松尾知明（2017）『多文化教育の国際比較』明石書店（ISBN：9784750346076） ・森茂岳雄他編(2019)『社会科における多文化教育』明石書店（ISBN：9784750348599） ・宮島喬（2022）『「移民国家」としての日本～共生への展望』岩波新書（ISBN：9784004319474） Wayne Au(ed.)(2014):Rethinking Multicultural Education, 2nd ed.,A Rethinking Schools Publication (ISBN：9780942961539) ・学習指導要領及び解説（小学校・中学校・高等学校）：文部科学省	